

○受講講義：Japan's Media Landscape

(1) 講義内容・進め方・負担などについての感想

この Japan's Media Landscape クラスは週に1回3時間の授業でした。受講生はスタンフォード生が20名程度、日本人学生が同志社大学から1名、京都大学から私1名でした。新聞・テレビ・漫画・映画など、日本における広義での media について、経済的側面や文化的側面を考えながら学ぶといった内容でした。

扱うトピックに関する英語の記事や論文（提示される）を読んだ上で、毎週授業に参加します。授業は、先生からの講義だけでなく、ディスカッション・プレゼンテーション・ゲストスピーカーの講義なども含まれます。予習は完璧にこなそうとすると、かなり大変な量です。基本的には授業で解説してくれるので、ある程度理解できていれば大丈夫だと思います。

ありきたりな言葉になってしまいましたが、授業は非常に面白かったです。何より、スタンフォード生の授業に対する熱意にとても驚きました。講義中に学生が積極的に質問し、皆で学びを深めていくというスタイルの授業はとても楽しむことができました。私も日本人学生として、授業に貢献したかったので、授業中に一度は発言するように心がけていました。授業で扱うテーマは日本に関するのですが、スタンフォード生の日本に対する理解や洞察が非常に鋭く何度も驚かされました。そのおかげで、日本の Media についての理解度が非常に深まり、私の社会に対する問題意識も変化しました。

(2) SJC 学生との交流についての感想

私は授業を受けるだけの SJC に留まることなく、スタンフォード生と今後も続く関係を構築したいと考えていたので、授業外でも積極的に交流をしました。スタンフォード生は日本に留学に来ているものの、スタンフォード日本センターが提供する授業のみを受講するため、日本人学生と交流する機会があまりありません。そのため、スタンフォード生も我々 SJC 受講生との交流に積極的で、良好な関係を築くことができました。一緒に観光に行ったり、ご飯を食べに行ったりしたことは SJC の思い出の一つです。このような交流を通じて、互いの文化理解を深めることができたので、本当の意味での国際交流ができたと思います。

(農学部 / 4 回生)

○受講講義：Contemporary Religion in Japan's Ancient Capital Sustaining and Recasting Tradition

(1) 講義内容・進め方・負担などについての感想

日本の宗教についての講義で、主に神道と仏教について、浄土宗・禅・修験道などを学び、そしてそれらが日本の文化や価値観にどう関わっているかを扱いました。京都という立地を活かしてフィールドワークが多い授業だったので、ほぼ毎週週2の授業のうち1回が講義、1回がフィールドトリップでした。行き先としては天龍寺や平等院など京都の神社仏閣から伊勢神宮や奈良国立博物館など遠方へも

出向きました(スタンフォードの学生限定で広島などにも行ったようです)。フィールドトリップではその場所の歴史や意味づけを教えてもらうだけでなく、坐禅や念仏などを実際に体験するものもあり、個人的に行きだけでは味わえない体験もできました。

講義の方では宗教史や日本の現状についての文献を読んできて、それを踏まえた上でディスカッションをするというのが基本的な流れでした。したがって毎回かなりの量(6~40 ページ超)の Reading が課され、必ずしも全て読まないで議論に参加できない訳ではないのですが、議論の前提知識となるので必死に読みました。ただ内容が日本の歴史や現状を扱うものがほとんどだったので比較的読みやすかった印象でした。

課題に関しては1テーマにつき数回のフィールドトリップを踏まえてショートエッセイを書くというのが5回ほどありました。250words 程度なので少なめかと思いきや、必須条件である Reading からの引用を含めればA4 丸々 1 ページほどにはなるので負担はそこそこ大きいです。またインタビュー課題や宗教行事についてのプレゼンなどもありましたが、ここは日本人に声をかけるというハードルが向こうの学生より遥かに低いのでやりやすかったと思います。負担としてはやはり Reading を読むことが一番大きかったです。

(2) SJC 学生との交流についての感想

なんといってもディスカッションが最初は特に大変でした。京大の E2 でのそれとは訳が違います。京大の留学生は、ヨーロッパから来ているドイツやフランス人だったり必ずしも全員が英語ネイティブではないことも多いですが、SJC では全員がアメリカ人なので比べ物にならないくらい話すスピードが速いです。しかも全員優秀なスタンフォード生なので議論になるとすぐに白熱して余計速くなります。初回の授業で、先生の話は聞き取れるのに、ディスカッションになるとなんの話題を話していたかも分からなかったのはかなりショックでした。正直最後まで完全に理解できるようにはなりませんでしたが、流れを聞いて自分の意見を言うくらいまでにはなれました。人によって聞き取りやすさが全然違うので、比較的聞き取りやすい人の発言に耳を傾けながら話題の流れを見ていました。

日本人として授業に貢献できる面としてはやはり歴史/慣習についての知識量が大きいです。例えば伊勢神宮などは古事記のエピソードに基づいたスポットが数多くありますが、みんな勉強熱心なのでエピソードそれ自体は知っていても、登場人物の関係などその周辺知識や文脈まで知っていることはほとんどありません。そういった文脈でこちらがきちんと説明できるととても楽しかったです。

また授業外での印象としてはすごく多様な人が集まっている印象でした。ずっと日本語の暗記カードを回している人もいれば、音楽がかかれば踊り出す人もいたし、宗教的に豚肉牛肉が食べられない人や、日系人で日本人にしか見えない人まで、多種多様な人が集まっていました。新しい視点としては、今までハラール食品についてなど考えたこともありませんでしたが、一緒にレストランを探してみただけ入れる店が少ないか知りました。逆に、好きな日本語は「割引券」と教えてくれたりとおっこりした場面などもありました。

(総合人間学部 / 2 年生)